

AIで歩き方数値化

福祉用具推奨に客観基準

福祉用具のレンタルや訪問介護、デイサービスなどを手がける「あい」（大泉町日の出、三友愛社社長）は、人工知能（AI）による歩行解析アプリを活用し、要支援者らに歩行器や四つづえなどの福祉用具の導入を勧めるサービスを開始した。歩行状態を客観的な数値として可視化することで、当事者が必要性を理解した上で用具を導入できる利点がある。

アプリはエクサウィザーズ（東京都港区）が開発した。5センチほどの距離を歩く様子をスマートフォンで撮影すると、AIが理学療法士の知見を基に歩行の状態を解析。「速度」「リズム」「ふらつき」「左右差」の4項目を、各5点満点で数値化する。



後方から撮影することで歩行状態を数値化する

「これまででは同社に3人いる「福祉用具専門相談員」が、軽度の要介護者や要支援者らの状態を見極め、歩行器など必要な福祉用具を提案していた。しかし、相談員の経験や技術にも違いがある上、「自分にはまだ（導入が）早い」といった声が出ることもあったという。

三友社長はアプリの導入により、「客観的に自身の歩行を知り、納得してもらった上で福祉用具の導入につながる」ことが期待する。アプリを活用することで同業他社との差別化を図り、新規のレンタル件数を現在の1.5倍程度まで増やすことを目指す。

同社の事業エリアは大泉、千代田、邑楽の3町のほか、太田市と栃木県足利市の一部。9月13日には大泉町の洋泉興業大泉町文化むらで、ケアマネジャーを対象にした歩行器などの選び方に関するイベントを開き、アプリも体験できる。問い合わせは同社（0276・555・4203）へ。（大泉和範）

売上高が22%増
純利1億800万円
西毛システムズ
4～6月期
情報サービス業の西毛システムズ（桐生市広沢町北沢直来社長）が26日発表した2022年4～6月期連結決算は、売上高が前年同期比22・8%増の36億4000万円、純利益が



みどり市笠懸町阿左美に開業するコンテナホテルのイメージ

みどりにコンテナホテル 来年1月オープン

コンテナを使った宿泊施設を展開するテベロップ（千葉県市川市、岡村健史社長）は来年1月、みどり市笠懸町阿左美に「ホテルアールナイン サヤード」を開業すると発表した。

コンテナホテルは県内4カ所目。コンテナホテルはコンテナ1台を1部屋とし、ユニットバスや冷凍冷蔵庫、電子レンジ、加湿空気清浄器を備えている。それぞれのコンテナは隣室と壁を接しないため、隣室からの音漏れがなく静寂性に優れているという。

開業するホテルの敷地面積は2944平方メートル。おきた渡良瀬産業団地に近く、ビジネス利用を見込む。全32室で大人1人1泊5千円から。コンテナのそばに駐車場があり、同社は「すぐに車に乗れ、自宅のような感覚で宿泊してもらえ」としている。災害時にはトレーラーなどで運び、避難所としても利用できる。

同社は2019年に館林（27室）に進出後、太田（37室）、伊勢崎（38室）と新規開業を続けている。今後本県を含む北関東での新設を進めるとしている。（関坂典生）

1億8000万円（前年同期は1億1900万円の赤字）だった。自治体向けシステム販売などが堅調で、黒字転換した。営業利益は1億6100万円（同3900万円の赤字）、経常利益は1億5500万円（同3500万円の赤字）だった。

サンデン 卓上自販機1日発売

店舗用ショーケースに日に発売すると発表し、非対面や非接触での商品購入ニーズの高まりを受けて開発した。ホテルのフロント、ロビーや病院、オフィスなど小スペースでの導入を見込む。

幅50センチ、高さ72・3センチ、奥行53・5センチ、重量は約37キロと持ち運びやすく、イベント会場での使用も想定する。100ワットの家庭用電源に対応し利便性を高めた。決済は主要な電子



発売する卓上自販機「卓つくん」

「中小企業は新型コロナウイルスの影響で厳しい状況。実際に支援する現場で感じている。県や市町村など関係機関と連携し全力で支援していきたい」。6月に就任した県中小企業診断士協会の吉村守会長（65）は太田市八幡町には決意を語る。

協会の会員は100人超。企業の経営改善計画を検討し、伴走支援を行うこともある。コロナ禍で国の中小企業支援策を普及する責任も増している。「会員はサービス業

全力で中小企業支援

や製造業を生かす「みだ」金沢市卒。神奈川県と「自啓発」に同診断士。2020年である大の中小企業の興味は「選考に出る」の「雨の幕」65日の「選考に計」持つ。「れば」と



風人雷人